

ISO 20022 が解決の鍵です

ISO20022 とは何ですか？

エグゼクティブ・サマリー

ISO 20022 は XML と同等であると考えられがちですが、ISO 20022 は、よりオープンでコスト効率に優れた、XML を基盤としたグローバルな共通規格のセットであり、この規格の活用により金融サービスをよりスムーズに構築することが可能となります。

規格には上記のような利点もありますが、もっと複雑な側面もあります。

本ホワイトペーパーでは、金融サービス規格の歴史的な背景と ISO 20022 の起源について解説します。また、この新規格のためのグローバル規格がビジネスに対して果たす役割や、今後の 5 年（超）において ISO 20022 の導入プログラムをどのように計画すればよいかについても解説します。

歴史的背景

はじめに歴史的背景を見ていきながら、本文書内で使用する難解な略字に関して解説していきます。金融サービス組織の世界では、信頼性が高く、監査可能で、シームレスに処理できる企業内・企業間的高速通信を介して、営業取引を可能にするための指示をやり取りしています。これは、金銭や金融資産を動かすその他の代替証券が機能する仕組みです。

その一連の活動（またはメッセージ）は、国や地域のビジネスに準じた標準フォーマット、市場のイニシアチブ、SWIFT (Society for Worldwide Interbank Financial Telecommunication) のような協同組合や産業団体が提唱した規格へと発展していった歴史があります。このようなメッセージ規格は、市場の慣行や各々の国の文化の違いなどにより個別に発展したため、それぞれのメッセージ規格同士に互換性がありませんでした。

この互換性の問題に対処すべく、国際標準化機構 (ISO: 国際規格組織の世界連合) は、国際規格 ISO 20022 - Universal Financial Industry メッセージ・スキーム (ISO 20022/UNIFI、現在では ISO 20022 に統一) を策定しました。

ISO 20022 は 1990 年代に、証券のみを対象とする ISO 15022 2nd Edition (別名 SWIFTML) として知られていました。2004 年には、その範囲が拡大され、すべての金融サービスの広範な送金が含まれるようになりました。やがてその所有権は、SC4 (証券業務および関連金融商品分科委員会) から ISO/TC68 (金融サービス技術委員会) に移されました。その後 TC68 は、ISO 20022 の改訂と管理を行う機関として、WG4 (ワーキンググループ 4) を設立しました。

ISO 20022 とは何でしょうか？

ISO 20022 規格は、標準化された XML 構文でメッセージを開発するための共通のプラットフォームを金融業界に提供するもので、以下を使用しています。

- > 構文に依存しない方法論で、金融ビジネス分野、ビジネス取引、関連するメッセージ・フローを把握する(UML に基づいた)モデリング方式
- > UML で記述されたメッセージを XML スキームに変換する XML 設計ルールセット

ISO 20022 は、規格のための規格、つまりデータおよび相互通信を記述するために必要な一貫性のあるメッセージ規格を策定する方法論です。この柔軟なフレームワークにより、ユーザーコミュニティやメッセージ開発組織が、国際的に合意されたアプローチに従ってメッセージ・セットを定義し、共通の XML ベースの構文の使用へ移行できるようになります。

ISO 20022 の承認および登録プロセスには、次の 3 種類の登録団体が関わるようになります。

- > 登録管理グループ(RMG)
- > 登録機関(RA)
- > 標準評価グループ(SEG)

RA および SEG は共同で作業し、RMG の指揮の下、登録要求を審査して処理します。現在指定されている ISO 20022 の登録機関(RA)は SWIFT です。ただし、ISO 20022 規格を実装している SWIFT サービスもありますが、ISO 20022 は SWIFT だけの規格ではありません。

基本的な ISO 20022 規格の方法論は、SWIFT に限らず、他の団体や市場関係者などでも使用できる柔軟性を持っています。このような団体および業界団体産業体が ISO 20022 の実装を開発した場合、その内容を ISO に提出でき、所定の手続きに則って規格カタログに登録されることもあります。外国為替の分野で、CLS 銀行が STP 化の進んでいなかった NDF と通貨オプション・プレミアムの決済に関する通信メッセージを 2006 年 2 月に ISO20022 登録管理グループ(RMG) に対して登録申請したという例があります。

最新の ISO 20022 規格には、ISO 20022 信託取引メッセージおよび顧客-銀行間支払メッセージの他、FpML、FIX、ACORD などの最初の実装による経験が組み込まれており、市場で成功したベストプラクティスの実例が示されています。

ISO 20022 は本質的に、世界中の金融市場で一貫性のある共通語を整備するためのロードマップです。その導入はますます勢いを増しており、テクノロジーとアプローチは複雑ではありますが、十分実証されています。ISO では、ISO20022 の範囲外になるその他のシリーズの規格、たとえば ISO15000 ebXML なども発表しました。これは、将来的に ISO20022 規格とも一貫性を持つものになります。

ISO20022 とは？

現時点でのすべての ISO20022 メッセージ・カタログは、オンライン上 (www.iso20022.org) で常時公開されています。ISO20022 メッセージの命名規則は「xxxx.aaa.bbb.cc」という書式に基づきます。

ただし

- > xxxx - 4 文字のビジネス分野、たとえば「pacs」
- > aaa - 3 桁のメッセージタイプ、たとえば「008」
- > bbb - 3 桁のバリエーション番号、たとえば「001」
- > cc - 2 桁のバージョン番号、たとえば「01」

ビジネス分野「xxxx」には以下の記号が入り、それぞれのビジネス分野に対応しています。

- > キャッシュマネジメント – camt
- > 送金清算および決済 – pacs
- > 支払起動 – pain
- > 参照データ – reda
- > 証券管理 – semt
- > 証券決済 – sese
- > 証券取引 – setr
- > 貿易業務 – tsrv
- > トレジャリー – trea

このように、関連するビジネス分野は、メッセージタイプの指定において識別することができます。また、金融サービス・メッセージングを使用するユーザーは、新しいセットの用語を制定することもできます。

ISO 20022 規格の拡張性を理解するために参考になるのが、単一ユーロ支払地域 (SEPA) イニシアチブが使用している支払メッセージ規格です。これは、ISO20022 が適用された最新の例の 1 つです。

支払メッセージの規格

支払は、1977年にSWIFTネットワークによって初めて実装されたメッセージ(MT100)で、ISO 20022導入につながる存在になっています。

ISO 20022のPACS規格およびPAIN規格は、SEPA支払メッセージの基本をなします。欧州支払協議会(EPC)は、ISO 20022メッセージ規格の適切な使用法を定義したSEPA実装GLのセットを開発しました。さらにEPCは、顧客-銀行間メッセージ(pain)ではISO20022規格の使用を推奨しているだけですが、銀行-銀行間メッセージ(pacs)においてはその使用を義務化することを決定しました。

この文書の目的に従い、ここから、SEPAプロジェクト全体についてではなく、ISO 20022仕様の使用方法に焦点を当てていきます。

最初の実装では、SEPAが合法的に義務化するpacsメッセージがその対象になっています。EPCは、それぞれのpacsメッセージに対して、2つのバリエーション・スキームを発表し、これを002、003としました。ここでの命名規則は、上記で使用されているものと一貫性があります。

xxxx.aaa.bbb.cc

xxxx - 4文字のビジネス分野、たとえば「pacs」

aaa - 3桁のメッセージタイプ、たとえば「008」

bbb - 3桁のバリエーション番号、たとえば「002」

cc - 2桁のバージョン番号、たとえば「02」

このため、銀行間支払の例では、次のようになります。

- > pacs.008.001.01.xsd - ISO 20022(金融機関から金融機関顧客銀行口座への振替)
- > pacs.008.002.02.xsd - SEPA 義務
- > pacs.008.003.02.xsd - SEPA AOS(AOSは追加オプション・サービスの略で、基本SEPA制約に違反することなく追加エレメントを使用可能。これらは、銀行間通信の目的で付加価値サービスを提供するために、個別の銀行またはプロバイダが使用できる)

SEPAの例からわかるように、ISO20022規格はその設計上拡張できるようになっています。これは、FIXやFpMLなどの他の規格とも共通です。これらの規格の場合、コア規格を基本として使用しながら、付加プロセスと新しい製品を追加するための拡張ポイントが用意されています。その結果、市場や使用法の専門化により専門的な方言が増殖するため、新しいメタデータの管理の問題が発生します。またこの方法では、統合プロジェクトに対する技術的なアプローチにおいて変化が生じ、アプリケーションレベルのデータサービスおよびメタデータ基盤ベースの統合テクノロジーが重要になってきます。

また、ここ数年のFpML導入経験を参照して、発生すると想定される実装の問題点を予測することもできます。FpMLはISO 20022ではなく、同様の設計原則を使用し

た高度な XML ベースの規格セットです。現在、FpML を使用した異なるバージョンのリリースが 40 以上発表されています。これらのリリースは市場関係者により、実装されるビジネス機能に基づいて、異なるバージョンが導入されています。ユーザーコミュニティでは、自然な選択により、個別のバージョンが実装されていますが、古い SWIFTNet FIN 規格が存在するため、いずれかの技術準拠が中心的に支配するという状況にはなっていません。基本的に FpML 規格も、内部アプリケーションごとの個別要件をサポートするため、各企業内でカスタマイズしたものを通常使用しています。つまり、ISO20022 には、さまざまな企業に特化された多くの同時リリースが発生するという事です。

ISO 20022 イニシアチブはその発展に合わせて、XML ベースのテクノロジーにも対応しています。このテクノロジーの魅力は、XML が、メッセージ構文を表現するための少なくとも共通のメカニズムを持っていながら、アプリケーションおよび統合開発テクノロジーがそのままの状態でも XML をサポートできることにあります。ただし、ISO 20022 規格と XML テクノロジーをそのまま使用することは、見た目ほど簡単なことではなく、検証規則を導入し特化する必要があります。

ISO 20022 規格には、セマンティクス検証規則も含まれています。これは、データエレメントセット間の論理的な関連を指定するビジネス規則です。簡単な例として、取引日を決済日にするか、あるいはそれ以前にするかというものがあります。これらの規則は、メッセージがビジネス上の観点から正しく形成され一連の取引処理(STP)が可能になるよう、規格の一部として指定されます。これについては XML で実装されていないため、ある種の検証ロジックを上位に実装しなければなりません。また、基本 XML 規格が拡張可能であると同様に、検証規則も拡張可能です。

これらの検証規則は、ISO 20022 規則のサブセットと、これらのバリエーションとして固有の新しい規則を追加したものが複合されたものになります。たとえば、EPC/SEPA バリエーションの口座引落(DD)メッセージでは、AT02 という Creditor エレメントのすべての識別子に適用しなければならない規則があります。これは IBAN チェックのようなもので、データ処理、係数 97-10 の計算、チェックが必要になります。

EPC/SEPA では、IBAN および BIC の専門化使用法はもはや「良いもの」ではなく、必須のものになっています。すべての支払取引および仕切取引で、これをサポートし検証するために静的データが前提条件になっていると同様に必須のものです。IBAN では ISO13616 規格の検証アルゴリズム、BIC では ISO9362 を使用しています。

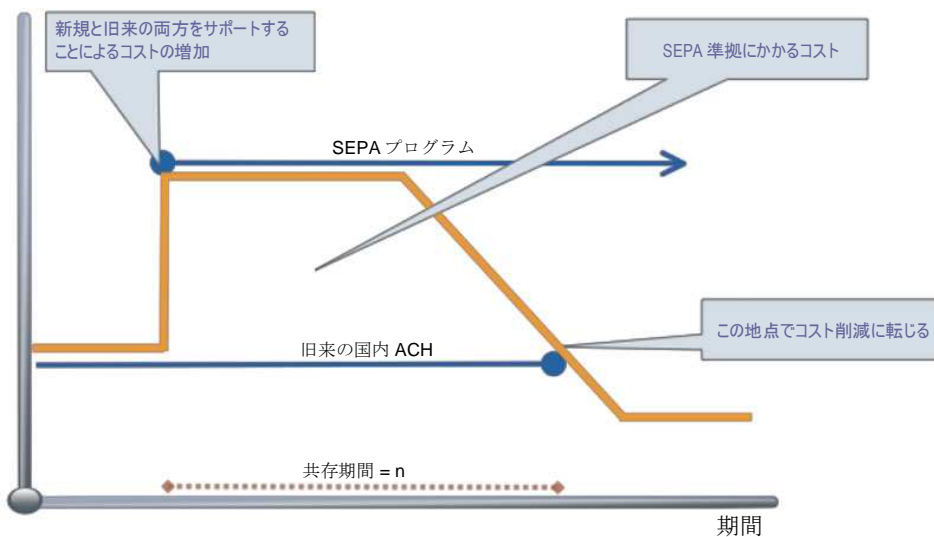
「ISO20022 とは何ですか？」へ立ち戻りましょう

ISO 20022 は、世界中の金融市場で一貫性のある共通語を獲得するためのロードマップです。その導入はますますその勢いを増しており、テクノロジーとアプローチは複雑ではありますが十分実証されています。

この新しい規格のためのグローバル規格がビジネスに対してどんな役割を担うのでしょうか

たとえば SWIFT が古い MT から新しい SWIFT MX 規格へ移ったように、ネットワーク・プロバイダによる移行を通じて、必然的な変化が始まります。また、ビジネスで、ISO 20022 でしか扱えない新しい取引フローをサポートしなければならなくなったこともこれを促進します。

SEPA への準拠のために短期的にサービス提供コストが増加することも重要です。既存のシステムでは、古い規格と新しい規格のサポートが必要で、両方が共存した不確定期間も必要になります。ここでもまた、最新の SEPA プログラムから、銀行、インフラストラクチャ・プロバイダ、企業が、古い国内支払規格と新しい ISO20022/EPC/SEPA 規格の他に、国際取引のための SWIFTNet FIN 規格をサポートしなければならないことがわかります。



この図は、SEPA 以前の規格と新しい SEPA 規格の両方をサポートしなければならない期間「n」があり、その分コストがかさむことを示しています。SEPA の場合、「n」は 2 年以上で、おそらくそれをかなり上回ることとなります。


ISO 2022 により競争力強化のチャンスも得られます

ISO 2022 規格に基づくビジネス取引では、企業の適用範囲が増え、より広い場所のより多くの顧客を対象にできるようになります。国境や各地域の旧来の規格を気にする必要もありません。これにより、金融サービス企業はチャンスを得ることになりますが、他の企業も同じように適用範囲を拡大し、障壁が低くなることで、新しい市場に乗り込んでいくという脅威が生じます。これは、競争力強化や世界市場の標準化というレベルではなく、すでに差別化と生き残りのレベルの問題になります。ISO 2022 では、取引フローの統合整理も必須になって、独自の実装はこれ以上維持できなくなり、容認されなくなります。これが、EU SEPA イニシアチブの目的で、ユーロ支払領域においては統合整理の圧力がすでに顕著になっています。

今後 5 年間で ISO 2022 の導入プログラムをどのように策定すべきでしょうか？

ほとんどの企業では現在、ISO 2022 ベースの規格の導入の必要性が高まっています。暫定的な対応ではなく、すべての企業が、移行期において旧来の規格と新しい規格の両方をサポートするようなしっかりした計画を必要としています。消極的な対応としては、取引業者が回答を出すことを信頼しながら待つことです。その場合は、取引業者側から、しっかりとしたロードマップの提示を受けることが重要です。本来の、そしてもっと適切な方法は、各企業が、ISO 2022 メッセージング・サービスおよび統合サービスを再利用できるようにするアーキテクチャー・ロードマップを持つことです。旧来の規格と新しい XML ベースの新出の規格の両方をサポートする、規格ベースの統合テクノロジーの使用を視野に入れなければなりません。また、既存のコンピューティングインフラストラクチャーで使用するため、プラットフォームに依存しないデプロイメントテクノロジーを持つソリューションも必要になります。

ISO 2022 規格の導入は、ビッグバン的なアプローチではありません。市場が主導する共通言語への移行なのです。



ISO20022 は「世界の金融サービス市場に対する共通語は何だ」ということへの答えです

ISO 20022 が解決の鍵です。

金融メッセージング規格およびソリューションの詳細については、www.progress.com を参照してください。

参考：www.ISO 20022.org



本社

Progress Software Corporation, 14 Oak Park, Bedford, MA 01730 USA

電話:+1 781 280-4000 Fax:+1 781 280-4095

www.progress.com

日本

日本プログレス株式会社 〒102-0082 東京都千代田区一番町18番地 川喜多メモリアルビル

電話:03-3556-7610 Fax:03-3556-7642

www.progress-japan.co.jp

各支社の所在地と連絡先については、www.progress.com/worldwideを参照してください。

Copyright © 2007-2010 Progress Software Corporation and/or its subsidiaries or affiliates. All rights reserved.
Progress, Artix, DataXtend, Sonic ESB, SonicMQ は、Progress Software Corporation、または米国や他国におけるその子会社、系列会社の商標または登録商標です。本書で記述されているその他の商標は、各所有企業の私有財産です。仕様は、予告なしに変更することがあります。